

# 異文化理解を目指した修学旅行

## ●学校紹介

本校は東京都豊島区にある平成16(2004)年に開校したビジネスコミュニケーション科を置く新しいタイプの全日制進学型専門高校である。1学年6クラス(35人)で構成している。実践している教育の柱として「グローバル時代に対応できるビジネス教育の推進」「使える英語を学ぶ」の2つが挙げられる。ビジネス教育ではコミュニケーションデザイン、ソーシャルビジネス等に取り組み、人や地域に役立つビジネスを学ぶ。英語教育では「ERP(多読と発表)」等に取り組み、プレゼンテーション能力の向上や異文化理解について学ぶ。卒業後の進路としては大半の生徒が大学への進学を実現し活躍している。



校舎外観

## School Data

【創立】平成16(2004)年  
 【教育目標】英語とビジネスを中心に将来に役立つ学習を推進している。また校歌にもある「RISPECT」の精神を他者への思いやりや異文化理解についても学ぶ。  
 【生徒数】623名  
 【教職員数】56名(平成28年度)

## 実施要項

- 旅行先 ベトナム社会主義共和国 ホーチミンシティ
- 時期 【1班】平成28(2016)年11月8日(火)～11月12日(土)  
 【2班】平成28(2016)年11月9日(水)～11月13日(日)
- 実施学年 第2学年6クラス204名 引率教諭12名

第1日目	【1班】11月8日(火)／【2班】11月9日(水) 【市内見学 クラス単位】 成田国際空港→タンソンニャット国際空港→統一会堂→民芸品店→ホテル
第2日目	【1班】11月9日(水)／【2班】11月11日(金) 【産業視察・平和学習 選択コース別】 第1回：ホテル→キリンビバレッジ→イオンモール→クチトンネル→ホテル 第2回：ホテル→旭化成住工→イオンモール→クチトンネル→ホテル 第3回：ホテル→現地縫製工場→高島屋→クチトンネル→ホテル
第3日目	【1班】11月10日(木)／【2班】11月10日(木) 【異文化・国際理解 班別】 ホテル→学校間交流(レ・ホンフォン高校)→B&Sプログラム(ドンコイ通り中心)→ホテル
第4日目	【1班】11月11日(金)／【2班】11月12日(土) 【平和学習・自然体験活動・産業視察 クラス単位】 ホテル→戦争証跡博物館→ビンチャン寺→ミト→イオンモール→タンソンニャット国際空港
第5日目	【1班】11月12日(土)／【2班】11月13日(日) タンソンニャット国際空港→成田国際空港

## 海外ビジネス英語研修旅行の意義

本校は開講して13年目を迎えた新しい学校であるが、第1期生から第3期生までは沖縄で修学旅行を実施していた。しかし本校で実践している教育の柱である「グローバル時代に対応できるビジネス教育の推進」や「使える英語を学ぶ」を考えると、国内の修学旅行だけでは培ってきたそれらの知識や技能がなかなか生かされないこと、「異文化理解」についても考慮し、第4期生から海外研修旅行を実施している。またこの修学旅行の名称も「海外英語ビジネス研修旅行」とした。第4期生から第9期生まではシンガポールに、第10期生はマレーシア、さらに第11期生は台湾へそれぞれ3泊5日(台湾は4泊5日)で実施した。平成28年度実施分は前年の平成27年の春に実施を決定し、旅行者者選定や教育委員会への届け出を行った。それまでに実施してきたシンガポールは現地の物価が高騰した背景もあり実施が困難になったこと、マレーシアは前年にテロ事件があり、研修旅行中の生徒の安全性を確保できなくなったことなどを鑑み、第12期生の訪問先を変更せざるを得なくなった。さまざまな視点で検討を重ねた結果、経済成長が著しく、企業訪問などのビジネス教育について学べることや英語を使つて積極的な現地の高校生と交流を持つことができ、コミュニケーション能力の向上も目指せるといった教育効果が挙げられることか

## ●重点を置いた活動

### 培ってきた使える英語と、ビジネスの知識を積極的に生かす

#### □事前指導実施計画一覧

平成27年度	7月	外部講師による講演会①瀬戸氏	海外修学旅行に向けての導入として、異文化理解に関する講演会を実施した。実際に現地を訪れて、直接体験することの大切さなどを話していただいた。
	12月	ベトナムの基礎知識に関する学習	ワークシートを使用し、国旗、地理(場所、面積、気候)、民族や宗教、言語、通貨など、ベトナムの基礎知識を調べ学習形式で学んだ。
	12月	外部講師による講演会②一般財団法人国際開発センター 津久井氏	映像(ベトナム北部の街並みや高校の英語の授業の様子等)を使いながら、ベトナムで8年間過ごした経験を中心に話していただいた。
	3月	ベトナムのビジネスに関する学習	ワークシートを使用し、経済成長率、人口分布、貿易や生産品、エネルギーなど、ベトナムのビジネスを調べ学習形式で学ぶ。
平成28年度	3月	パスポート取得に関する学年指導	海外が初めての生徒も多いので、パスポート取得までの流れを説明した。春休み中にパスポートを取得させた。
	4月	校外学習にて、集団活動を実践	鎌倉にて、留学生と共に校外学習を行った。1班あたり1人の留学生を配置し、英語を使いながら5～6人の生徒が鎌倉観光のガイドを行った。
	5、6月	各教科内でのベトナムを関連させた授業	英語科、ビジネス科、地理歴史科を中心に、授業内でベトナムを関連させた学習を行った。
	7月	外部講師による講演会③株式会社エーベックスインターナショナル 水林氏	今現在ベトナムで働いている方から、ベトナムの経済発展の様子や実際に修学旅行で訪れた場所などをパワーポイントで紹介していただいた。また、海外でのマナーや注意事項についても話していただいた。
	8月(夏休み)	ベトナムに関する調べ学習	各自で「ベトナムの○○」(例：「ベトナムの料理」など)というテーマを設定し、A4サイズの厚紙に図表やイラスト等を使いながら調べた内容をまとめる。
	9月	文化祭	夏休みの課題を3階フロアホールに展示した。また、各クラスでベトナムをテーマにした出し物を企画した。バインミーやフォーなどを販売した。
	10月	各教科内でのベトナムを関連させた授業	英語科、ビジネス科、地理歴史科を中心に、授業内でベトナムを関連させた学習を行った。
11月	本番直前の学年指導	学年集会を行い、しよりの読み合わせや海外での注意事項等を最終確認した。	

ら訪問先をベトナムに決定した。さらに修学旅行を例年11月に実施していることからベトナムの気候なども考慮し、一番南に位置し、見学先や訪問先も充実したホーチミンシティに決定した。研修内容としては現地高校生との学校間交流、現地企業の視察研修、ベトナム戦争を通じた平和学習を中心に計画した。

## 事前指導・事前学習

本校では1年次にCSL(コミュニケーション・サービス・ラーニング)という授業を1単位実施している。授業内容としては「人や地域に自分ができること」や「異文化についての理解」について考えさせレポートをまとめ、グループごとに発表を行う。第12期生はまず

「日本と諸外国の違い」について考えさせた。この中で日本では当たり前として捉えられている事象も、諸外国では理解されなかったりする場合があることを生徒たちは学んだ。さらに授業では外部講師を招いての講演会も2回行った。実際に海外で働いたことのある講師の体験談や、ベトナムに暮らしたことのある方の講話を聴き、翌年実施される研修旅行のイメージ作りに効果があった。

また、2年次では「総合実践」の授業において、「異文化理解」や「アジア経済研究」などのテーマに取り組んだ。また、9月に行われた文化祭に向けて研修旅行をテーマに企画を行った。夏季休業中の課題として「ベトナム調べ学習」を行い、A4の模造紙に文字やグラフ、イラストなどを自由に用いながら

まとめさせ全員分のレポートを展示するとともに、食品調理・販売を企画したクラスではベトナムをイメージした食材やメニューを提供するなど工夫も行った。事前指導の流れについての詳細は表をご覧ください。

## 学校間交流について(準備)

今回の研修旅行の目玉の一つでもある学校間交流は訪問日の午前中に現地高校を訪

れ、昼食を挟み、午後はグループごとにホーチミン市内を観光するというプログラムで行った。訪問先であるレ・ホンフォン高校はホーチミンにある高校で、在籍する生徒の大半は大学へ進学を希望するという市内でも有数の進学校である。そして大半の学生は将来国外で活躍を希望しており、日本文化や日本企業についても興味を持っている。

事前準備をするうえで、ベトナムで暮らす人々のライフスタイルや文化の調べ学習も行った。そして、訪問先では本校ダンス部によるダンス発表と歌詞を英文に置き換えた校歌を歌う企画を計画した。校歌練習はホームルームの時間を使ってクラスごとの練習から始まり、研修旅行出発直前に体育館で全体練習を行った。日頃から英語に親しんでいる生徒たちは積極的に練習に取り組むことができた。

### 学校間交流について(訪問当日)

11月10日に宿泊先のホテルからバス6台に分乗しレ・ホンフォン高校へ向かった。学校では教頭先生や教務主任の先生が我々を出迎えてくださった。1階にある生徒ホールへ入ると、椅子やプロジェクター、音響設備の準備が整っていた。司会の進行で午前10時よりセレモニーが開催された。レ・ホンフォン高校の生徒もベトナム舞踊やベトナム民謡の発表などしていただき本校の生徒たちもとても喜んでいった。本校のダンスの発表ではレ・ホ



事前指導(外部講師による講演会)



産業視察(旭化成)



平和学習(戦争証跡博物館)

つた。生徒たちの中には、あまりの辛さに数分間で見学をやめてしまう者や涙を流す者がいた。この博物館には「戦争で生じた悲惨な過ちを二度と繰り返してはならない」というベトナムの方々の思いが込められている。生徒たちの中では、戦争の恐ろしさや平和に対する意識が高まったように感じた。

### ミトー自然体験学習

最終日はミトーでの自然体験学習を行った。ここではベトナムでも有名な「フィッシュユ」を食べ、そのあとメコン川をミトーメコンデルタへ向けてクラスごとに船で向かった。デルタ内では、ココナツキャンデーの工場見学や蜂蜜茶の試飲、小型の手漕ぎボートに乗船し、ヤシの群生地帯をクルージングした。ノンラー(ベトナム特有のわらで作られた日除け)を被り、生徒たちは楽しそうにしていた。

またこの場所で生産されているお土産などの類はすべて手作りであり、日本には無い古き良き時代を感じさせられた。

このあと、タンソンニャット国際空港へ移動し、夜間便で帰国した。

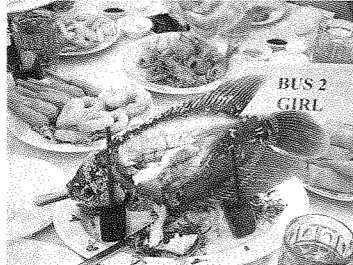
### 生徒の感想

○初めての海外

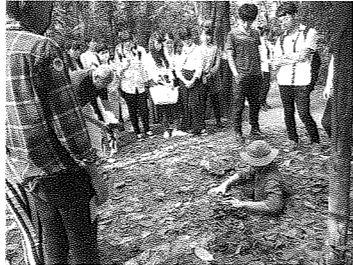
都立高校では国内の修学旅行が普通なのに、海外修学旅行という貴重な経験をすること



ミトー(自然体験学習の様子)



ミトー(名物料理エレファントフィッシュ)



平和学習(クチトンネル)

ンフォン高校の生徒も壇上上がり一緒に踊って楽しめた。そのあと、中庭へ移動し、いくつかのグループに分かれスポーツゲームに汗を流した。

午後はB&S(ブラザーアンドシスター)プログラムとして、本校生徒7名に対し、レ・ホンフォン高校の生徒1名がアテンド役で付いていた。市内観光を行った。市内観光については事前に希望行先を伝えており、スムーズに観光ができた。道中、おいしいアイスクリームを販売している店や、お土産が安く買える店を教えていただいたり、本校の生徒たちも満足していた。夕方5時に名残惜しうにレ・ホンフォン高校の生徒たちと別れ、無事に学校間交流を終えることができた。学校間交流全般は、日本に興味を抱く学生が多かったせいか、とてもスムーズに実施することができた。

### 企業視察について

前後半それぞれ3クラスの生徒について、視察を希望する3つの班に分けて企業視察を行った。事前指導では訪問先企業や同種産業のベトナム国内での動向についての調べ学習を行い、レポートにまとめた。訪問先企業は①キリンビバレッジ②旭化成③ベトナム縫製工場で行った。3つの企業のうち2つは日本企業ではあったがそれぞれの企業では日本人社員は2〜3名ほどしかおらず、ほとんどの社員はベトナムの方であった。ベトナムの企

業の多くは朝・昼・夜の3交代制を採用していた。視察では企業の概要説明や工場見学、質疑応答などを通じて積極的に質問をするなどとても充実した内容であった。ほとんどの企業は海外へ輸出するために生産を行っていたようであったが、近年はベトナム国内の需要も伸び、生産数も増加傾向にあるということもあり、活気に満ち溢れていた。

### 平和学習について

平和学習の一環として、企業視察の日の午後にクチトンネル遺跡、最終日の午前中に戦争証跡博物館を訪れた。クチトンネル遺跡はホーチミンシティの中心部から、車で2時間程度の場所に位置していた。この地はベトナム戦争の際に、解放戦線側の有力な拠点であった。トンネルは雑木林の下に掘られ、全長は200kmにも及んでいた。解放戦線はこのトンネルを活用しながら、ゲリラ戦を展開した。生徒たちは雑木林内の罾やトンネル内の探索など、当時の戦争の様子を体験的に学ぶことができた。また、生徒たちには銃の試射は禁止としていたが、クチトンネル遺跡では、他の観光客が試射する銃声も響き渡り、緊張感を持ちながらあらためて平和の大切さについて実感できた。

戦争証跡博物館には、ベトナムでの戦争や枯葉剤の被害等に関する資料が多く展示されていた。実際の戦時中の写真やホルマリン漬けの奇形胎児など、衝撃的な展示ばかりであり、コミュニケーションをとり、分かり合うことができた。

ベトナムの高校生の語学力(英語+日本語)の高さに刺激を受け、自分自身も勉強を頑張ろうと思った。

### 異文化体験について

海鮮料理が中心でおいしかった。同じ海鮮料理でも、日本とは風味が異なっていた。日本では食べられないようなものも食べることもできた。

メコン川クルージングがとても印象に残っている。蛇を首に巻いた。

気候が日本とは異なり、11月なのにととても暑かった。

都心部には、洋風の街並みがいっつか見受けられた。

バイクの通行量が多く、道路間の横断が難しかった。バイクはぶつかりそうだけど、ぶつからない。

### 平和学習について

戦争証跡博物館には、戦時時の生々しい写真が数多く展示されていた。その悲惨な様子から、涙が出てしまった。戦争についてたくさん学び、いろいろと考えさせられた。

主幹教諭 小室 善之  
教諭 堀 大輝